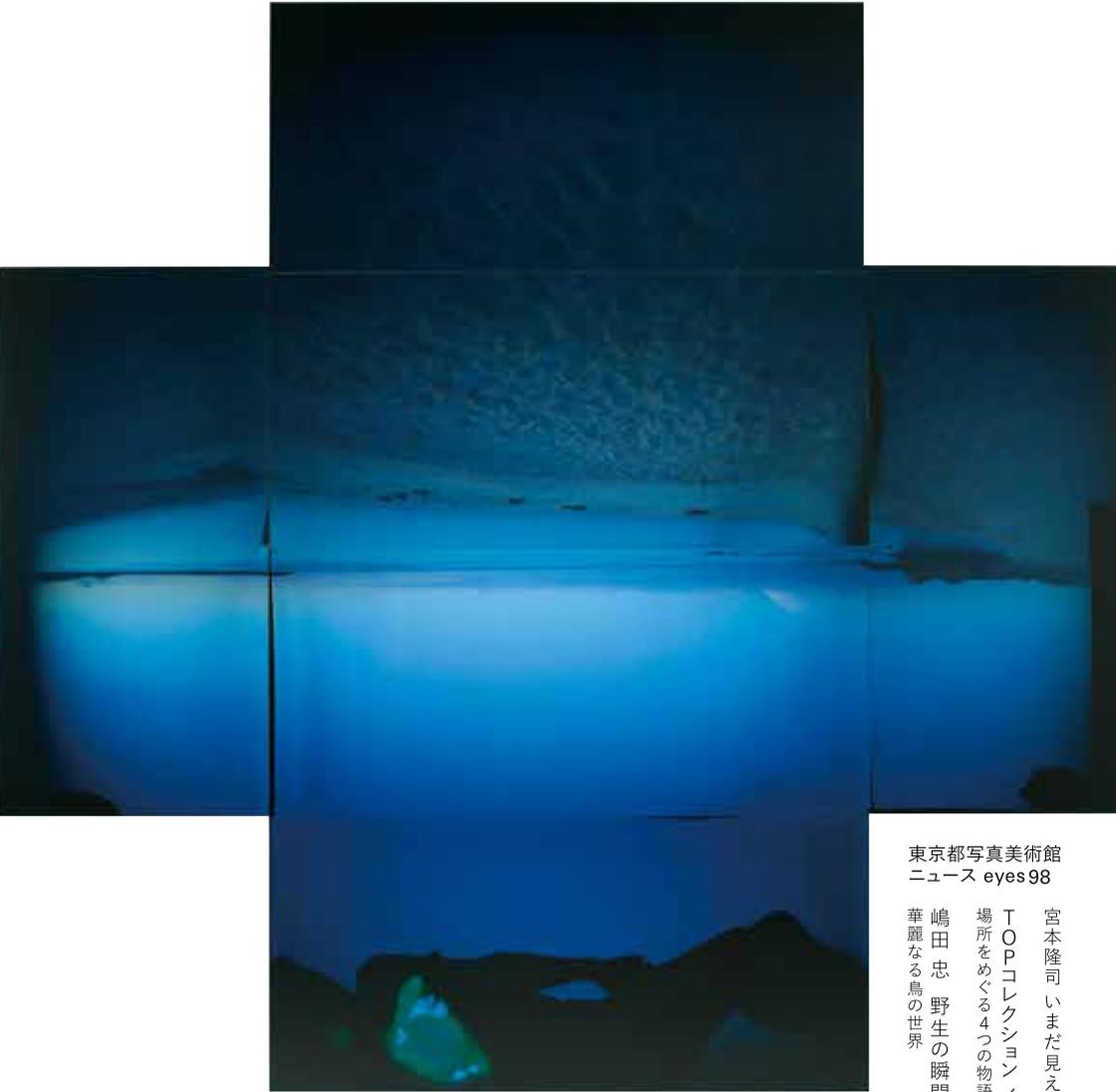


# TOP MUSEUM



東京都写真美術館  
ニュース eyes 98

宮本隆司 いまだ見えざるところ  
TOPコレクションイメージを読む  
場所をめぐる4つの物語  
嶋田忠 野生の瞬間  
華麗なる鳥の世界

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM  
NEWS MAGAZINE / 2019 Vol.98



《東方の市》より《Can Tho》1992年

# 宮本隆司 いまだ見えざるところ

MIYAMOTO Ryuji Invisible Land

2F 2019.5.14|火|-7.15|月・祝|

## 宮本隆司 MIYAMOTO Ryuji (1947-)

東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。建築雑誌の編集部を経て、1975年写真家として独立。86年、建築の解体現場を撮影した《建築の黙示録》、88年、香港の高層スラムを撮影した《九龍城砦》で高い評価を受ける。89年に第14回木村伊兵衛写真賞を受賞。96年、第6回ヴェネツィア・ビエンナーレ建築展に参加し、阪神淡路大震災によって破壊された建築物を撮影した写真を展示して金獅子賞を受賞。2004年、世田谷美術館で個展を開催ほか国内外のグループ展にも数多く出品している。05年、第55回芸術選奨文部科学大臣賞、12年 紫綬褒章受章。

宮本隆司は、建築空間を題材にした都市の変容、崩壊の光景を独自の視点で撮影した《建築の黙示録》《九龍城砦》作品によって広く知られる存在となりました。近年は、両親の故郷である奄美群島・徳之島でアートプロジェクトを企画・運営するなど、その活動は新たな展開を見せています。

本展覧会では初期の作品から、アジアの辺境や都市を旅して撮影した写真、徳之島で取り組んだピンホール作品等を展示します。確かにそこで見たはずなのに、どこまで見えているのかわからない、そんな、いまだ見えざるところとその場所について宮本隆司が展覧いたします。

【主催】東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社 【特別協力】キャノンマーケティングジャパン株式会社  
【観覧料】一般 700(560)円／学生 600(480)円／中学生・65歳以上 500(400)円 ※( )は20名以上の団体料金

表紙図版／《面縄ピンホール》2013年

## 都市をめぐって

宮本は写真家としてデビューして以来、建築や建築が創り出す都市の風景を捉えた作品を数多く発表してきました。最初のパートでは、1980年代以降に撮影されたシリーズから、選りすぐられた作品を紹介します。

### 一 建築の黙示録

《建築の黙示録》は宮本にとっての代表作の一つであるシリーズです。最初に1988年に写真集『建築の黙示録』が出版されました。今回出品する作品は2003年に出版された写真集『新・建築の黙示録』に含まれる6点です。これらは恵比寿ガーデンプレイスの前身であるサッポロビール恵比寿工場の解体作業の間に撮影されたものです。宮本は解体の始まる直前まで6年間、隣接するマンションに住んでいた縁もあり、1年かかった解体工事を長期間記録していました。

《サッポロビール恵比寿工場》1990年 作家蔵  
©Ryuji Miyamoto Courtesy of  
Taka Ishii Gallery Photography / Film



《ロー・マンタン》1996年より 1996年

### 一 ロー・マンタン1996

1996年5月、宮本は詩人・佐々木幹郎の誘いを受け、7日間かけてネパール・ムスタンの城砦都市ロー・マンタンに赴きます。標高3,780mに位置し過酷な気象条件に晒された同地は、1991年まで外国人の入城が禁止され、電気・ガス・上下水道などの近代都市設備は無く、交通手段も徒歩または馬に限られた、まさに秘境とも言うべき場所でした。城内は王宮を中心に、チベット仏教寺院・僧侶が建ち並び、住居がその隙間を埋める入り組んだ作りで、人々は城壁の外周で麦・蕎麦の栽培や羊の放牧を行い、衣食住を自給自足していました。9日間にわたる滞在の間、4×5(シノゴ)の大判カメラを携え撮影は行われましたが、宮本は絶えず高山病に苛まれ撮影道中の記憶も定かまらなかったといいます。再訪を誓ったものの20年以上の歳月が流れました。



《塔と柱》より 2011年 作家蔵  
©Ryuji Miyamoto Courtesy of  
Taka Ishii Gallery Photography / Film

### 一 東方の市 (とうほうのまち)

『文藝』に1991年～92年にかけて掲載されたシリーズ。1992年にギャラリー・ヴェリダ(東京)の個展で展示されました。沖縄や徳之島といった日本の島を含む、アジア地域の街を捉えた作品で、詩人の佐々木幹郎がこのシリーズタイトルがつけられています。《建築の黙示録》や《九龍城砦》と定期的に撮影されたものですが、1992年の個展以来展示される機会のなかった作品です。

### 一 塔と柱

キリコの塔の絵から想起され撮影したシリーズで、建設途中のスカイツリーをピンホールカメラで捉えた作品です。電信柱と電線を敢えて一緒に入れて撮ることによって、シュールレアリストであるキリコへのオマージュになると考えられたものです。

出品予定作品

シリーズ《建築の黙示録》《ロー・マンタン1996》《東方の市》《塔と柱》《ソテツ》《面縄ピンホール2013》など約100点出品予定

宮本は2014年に「徳之島アートプロジェクト2014」を企画し、自身も作家として出品しました。宮本の両親は徳之島出身であり、幼少の一時に生活していましたが、自身のルーツである徳之島について作品発表することはありませんでした。しかしプロジェクトを機に島へ通い続けることによって、島が共同体としてのシマの連なりであることに気づきました。奄美地方では「シマ」は島ではなく、集落ごとの小さな共同体を示す言葉です。シマに暮らす人々と場を宮本の眼を通して見つめます。



〈シマというところ〉より「平土野」2010年 作家蔵  
©Ryuji Miyamoto Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film



〈ソテツ〉より 2014年 作家蔵  
©Ryuji Miyamoto Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film



〈シマというところ〉より「面縄」2010年

## ■ シマというところ

徳之島の集落に暮らす住民たちのポートレートと行事です。

## ■ ソテツ

2014年に開催された「徳之島アートプロジェクト2014」のために撮影された作品。徳之島にはソテツの群生地があり、その新芽のクローズアップを撮ったものです。ソテツは南方の島の明るいイメージを持つ植物ですが、この地方にとっては、万が一の飢饉に備えて植えられている「救荒食品」として知られています。新芽は生命力を思わせるもので、この島の風土や歴史を象徴する存在です。

## ■ 面縄ピンホール 2013 (表紙図版)

2歳過ぎまで面縄(おもなわ、徳之島の伊仙町)で暮らした宮本。その頃に見たはずの海辺に自作の大型ピンホールカメラを設置し、内部に作家自身が入り込んで撮影した作品です。宮本は、「ピンホールカメラの暗闇に身を横たえていると遠い昔の、わたしが乳幼児だったころの記憶が戻ってくるような気がした。微細なピンホールを通して入る微かな太陽の光を浴びていると、面縄シマの父の家の前にひろがるイリバアの波打ち際に海に浸かった遙かな記憶が蘇るように思えた。」と語っています。

## | 関連イベント

**鼎談** [登壇者] 倉石信乃(明治大学教授)×林道郎(美術史・美術批評)×宮本隆司  
[日時] 2019.5.25(土)14:00-16:00

**対談** [登壇者] 佐々木幹郎(詩人)×宮本隆司  
[日時] 2019.6.22(土)14:00-15:30

上記2つとも、東京都写真美術館1階ホール(整理番号順入場/自由席)、定員190名  
※当日10時より1階受付にて整理券を配布します

## 宮本隆司ワークショップ「見るためには闇が必要だ」

ピンホールカメラを制作し撮影・現像を行うワークショップです  
[日時] 2019.6.1(土)10:00-18:00  
[対象] 18歳以上 [定員] 20名 事前申込制  
[参加費] 4,000円 ※申込方法など詳細は当館ホームページをご確認ください

## | 担当学芸員によるギャラリートーク

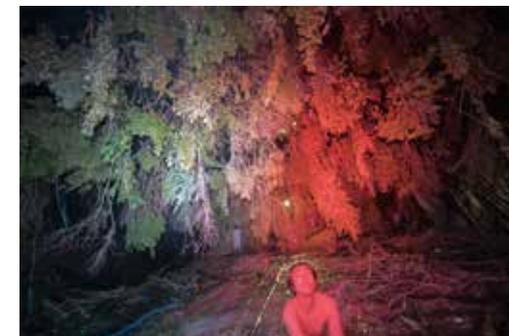
会期中の第2・第4金曜日14:00より。本展チケット(当日消印)をご持参ください。  
\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

## 志賀理江子 ヒューマン・スプリング

Shiga Lieko Human Spring

2F 2019.3.5|火|-5.6|月・振休|

本展は、独自のフィールドワークを元に制作する作品群で、国際的な注目を集める志賀理江子の、2年ぶりとなる全作新作による個展です。日本各地の様々な年代、職業の人々とともに協働し制作した作品を、等身大を超えるスケールの写真インスタレーションで構成します。平成が終わる大きな節目の春に精神の極限を見つめ、現代の社会と個人、自然と人間の関わりを編みなおし、生の解放される場となれば幸いです。



〈ヒューマン・スプリング〉2018年 作家蔵 発色現像方式印刷 ©Lieko Shiga

## | 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。うち、3月22日は手話通訳つきです。観覧券チケット(当日有効)をご持参ください。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

## | 関連イベント

てつがくカフェ「ヒューマン・スプリング」

[日時] 2019.4.13(土)第1回 展覧会から「ヒューマン」を考える 14:00-17:00  
2019.4.27(土)第2回 展覧会から「スプリング」を考える 14:00-17:00

[定員] 各回50名 事前申込制 ※申込方法など詳細は当館ホームページをご確認ください

[主催] 東京都 東京都写真美術館/東京新聞 [協賛] 株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/凸版印刷株式会社 [協力] 株式会社カラーサイエンスラボ/石堂建設株式会社

[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円 ※( )は20名以上の団体料金

## 写真の起源 英国

3F 2019.3.5|火|-5.6|月・振休|

写真の発明に関する研究は18世紀末から始まり、1839年に最初の技術が発表されることで写真の文化が幕を開けます。英国ではヴィクトリア文化に根ざす貴族社会において、研究が発展し、広く文化として波及します。

本展は、多くの日本未公開作品を手がかりに、これまで日本国内で知られていなかった英国の写真文化の多彩な広がりを展覧します。これは同時に、19世紀の華麗な英国の姿を同時代に制作された写真によって目の当たりにできる希有な経験となるでしょう。幕末～明治の日本人たちが憧れた英国の写真文化とその歴史の広がりをお楽しみください。

## | 関連イベント

「写真の起源 英国」連続講座

[日時] 2019.3.23(土) 14:00-15:30 打林俊(東京大学総合文化研究科特別研究員)  
2019.3.29(金) 18:00-19:30 高橋則英(日本大学藝術学部教授)

[会場] 東京都写真美術館1階スタジオ [定員] 各回50名  
※当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

## | 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日および4月29日、5月3日、5月4日、5月5日の14:00より。観覧券チケット(当日有効)をご持参ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [協賛] 東京都写真美術館支援会  
[協力] 全日本空輸株式会社

[観覧料] 一般 900(720)円/学生 800(640)円/中高生・65歳以上 700(560)円 ※( )は20名以上の団体料金

# TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語

TOP Collection Reading Images: The Stories of Four Places

3F 2019.5.14|火|-8.4|日|

TOPコレクションは東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「イメージを読む」。作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考えます。本展は35,000点を超える当館コレクションから選び抜かれた個々の作品や、複数点からなるシリーズ作品をとおして、それぞれが語りかけてくる物語に着目します。作品の背後にある意味やお互いを結びつける関連性を浮き上がらせることで、イメージを読むという、豊かな鑑賞体験へと観客の皆様を誘います。



W.ユージン・スミス《夜通して手術を行った後、台所で休むセリアーニ医師、コロラド州クレムリング 1948年》(カントリー・ドクター)より 1948年 ©2019 The Heirs of W.Eugene Smith/PPS

5月に始まる第1期は「場所をめぐる4つの物語」をテーマに、「場所」と密接にかかわった4人の作家によるアプローチを取り上げて、そこから生まれる物語的な世界の広がりを見つめていきます。

それぞれの作家たちは、あるひとつの場所や地域を深く見つめ、その場所に固有の生活や風景、出来事をとらえるだけではなく、現実的な事象からさらにその向こう側にある隠された物事の本質や普遍的な意味をとらえています。本展では写真やテキストで展示を構成し、それぞれのイメージを読んでいきます。

## 出品予定作家

❖ W.ユージン・スミス〈カントリー・ドクター〉1948年  
人口約2000人の町、アメリカコロラド州クレムリングでたった一人の医者、アーネスト・セリアーニの多忙な生活と仕事をテーマとした作品。写真週刊誌『LIFE』1948年9月20日号に発表されたこの作品は、ドキュメンタリー写真家の第一人者であるスミスがヒューマンイズムの視点から取材・撮影し、同誌の記者による文章とともに掲載された、社会派フォトエッセイの名作とされる。本展では約30点の写真作品とテキストによって、今日ではほとんど忘れられた発表当時のストーリーを紹介する。



山崎博〈Ten Points Heliography〉より 1982年

【主催】東京都 東京都写真美術館 【協賛】凸版印刷株式会社  
【観覧料】一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金 ※7月18日(木)-8月2日(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金)※各種割引の併用はできません。



奈良原一高《アパートの道》(人間の土地 緑なき島-軍艦島)より 1954-57年

❖ 奈良原一高〈人間の土地 緑なき島-軍艦島〉  
1954-57年

明治から昭和時代に海底炭鉱で栄えた長崎の島、端島(通称・軍艦島)。良質な石炭を産出し、最盛期の1960(昭和35)年には約5300人もの人々が暮らしていた。しかし、日本の近代化が進み、主要エネルギーが石炭から石油へ移行したことによって1974(昭和49)年に閉山し無人島となる。2015(平成27)年世界文化遺産に登録された。本作はかつて活気に満ちていた島の情景をとらえた貴重な記録であるとともに、外界から隔絶された世界で「限界状況を生き続ける人間の生」という作家の抱いたイメージが強く投影されている。



内藤正敏〈出羽三山〉より 1980年

❖ 内藤正敏〈出羽三山〉1980-82年

修験道の聖地、山形・出羽三山の宗教世界とその祭祀について、作家自らが修行者となってこの地に入り込み、取材した写真シリーズとそこから展開する創造的な世界観を、作家自身による民俗学的な論文や、「内藤正敏 異界出現」展(当館にて2018年開催)で明らかになったいくつかのエピソードもまじえて紹介する。〈出羽三山〉シリーズは1983年土門拳賞受賞作品。

❖ 山崎博〈Ten Points Heliography〉1982年

作家の代表作である「太陽が描く画」というコンセプトによる長時間露光のシリーズ〈Heliography〉。本シリーズ〈Ten Points Heliography〉は、1970-80年代にかけて手がけた一連の〈Heliography〉の最終形であった。幻の作品とも言える本作の制作に関わった関係者の証言によって、36年前に東京・調布市周辺10カ所で同時刻に二日間にわたり撮影された、作品の壮大なコンセプトと制作過程に迫る。

\*作品は全て東京都写真美術館蔵  
\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

TOPコレクション イメージを読む 第2期(仮称)

3F 2019.8.10|土|-11.4|月・振休|



米田知子《安部公房の眼鏡—「箱男」の原稿を見る》(Between Visible and Invisible)より、2013年

第2期では、写真が持つイメージや物語(性)、そしてそこから生じる「時間」に焦点を当てて紹介します。作品の背後に潜む時間を駆動させる契機や、引き起こされるイメージの連鎖などに注目しながら、写真と物語、そして付随する時間との関係性を多角的に考察し、当館コレクションの新たな魅力を探ります。

## 関連イベント

### 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。\*作品解説ではありません。

【日時】2019.6.8(土)10:30-13:00、2019.6.15(土)10:30-13:00

【定員】各日7名 事前申込制

【参加費】500円(別途本展観覧チケットが必要です)

### じっくり見たり、つったりしよう!

暗室での写真制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。\*作品解説ではありません。

【日時】2019.7.27(土)10:30-13:00、2019.7.28(日)10:30-13:00

【対象】小学生とその保護者(2人1組) 【定員】各日10組 事前申込制

【参加費】800円(別途本展観覧チケットが必要です)

※申込み方法等詳細はチラシ、ホームページ等をご覧ください。

## 担当学芸員によるギャラリートーク

5月17日、6月7日、6月21日、7月5日、7月19日各各曜日16:00より、および7月26日(金)18:00より。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。

# 世界報道写真展2019

World Press Photo 2019

B1F 2019.6.8|土|-8.4|日|

世界報道写真コンテストの受賞作を紹介する「世界報道写真展2019」は世界中の約100会場で開催される世界最大級の報道写真展です。62回目を迎える今回のコンテストには、129の国と地域から4,738人のフォトグラファーが参加し、78,801点の応募がありました。

今年は、「現代社会の問題」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「環境」、「スポーツ」、「スポットニュース」、そして昨年の「人々」に変わり「ポートレート」の部の8部門において、25カ国43人の全受賞者と大賞候補作6件が決まりました。また新たに、複数の写真を用いてストーリーとして事象を表現した作品を評価する「世界報道写真ストーリー大賞」が設けられ、候補作3件が発表されました。

「スポットニュース」の部では、ジョン・ムーアがメキシコとアメリカの国境で、母親の取り調べ中に泣き叫ぶホンジュラスの少女を捉えました。また「一般ニュース」の部では、サウジアラビアのカショギ記者が行方不明になった事件で、サウジの総領事館に押し寄せる報道陣の姿を写しています。ほかにも、シリアで続く内戦やコロンビア革命軍の元女性兵士の暮らし、オランダ領キュラソーのカリブフラミンゴを捉えた作品など、世界の「いま」を克明に伝える写真の数々を紹介します。なお、各賞の受賞者および大賞作品は、オランダで行われる受賞式にて4月に発表されます。



「現代社会の問題の部 組写真」  
世界報道写真大賞 候補作品  
カタリナ・マーティン・チコ フランス/スペイン、パノス

ヨルラディスは、コロンビア革命軍(FARC)に加わっていた間の5回に及ぶ墮胎を経て6回目の妊娠を果たした。2016年にコロンビア政府と反政府ゲリラ組織FARCとの間で和平合意が成立して以来、元女性兵士の間ではベビーブームが起きている。



「一般ニュースの部 単写真」世界報道写真大賞 候補作品  
クリス・マクグラス オーストラリア、ゲッティイメージズ

ジャマル・カショギ記者行方不明に対し国際的な反発が高まる中、2018年10月15日、トルコ・イスタンブールのサウジアラビア総領事館にサウジ側の調査員数名が到着した際、ある男性が報道陣を懸命に制止している。

「スポットニュースの部 単写真」世界報道写真大賞 候補作品  
ジョン・ムーア アメリカ、ゲッティイメージズ

2018年6月12日、メキシコとの国境沿いにあるアメリカ・テキサス州マッカレンで、ホンジュラスからとも来た母親のサンドラ・サンチェスが国境監視員の取り調べを受けている間、泣き叫ぶヤナ。



【主催】世界報道写真財団/朝日新聞社 【共催】東京都写真美術館  
【観覧料】一般 800(640)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 400(320)円 ※( )は20名以上の団体料金  
サマーナイトミュージアム割引は適用外



「スポットニュースの部 組写真」  
世界報道写真大賞 候補作品  
モハメド・バドラ シリア EPA通信

2018年2月25日、シリアの首都ダマスカス郊外、東グータ地区シフォニエへの毒ガス使用が疑われる攻撃で負傷し、治療を受ける人々。



「環境の部 組写真」世界報道写真大賞  
候補作品 プレント・スタートン  
南アフリカ、ゲッティイメージズ

ジンバブエのフンドゥドゥ野生動物公園で、女性メンバーだけで構成される反密猟武装部隊「アカシंगा」の偽装・隠蔽対策訓練に参加するベトロナ・チグムブラ(30)。



「自然の部 単写真」  
ヤスパー・ドゥースト オランダ

オランダ領キュラソーのFDOC(カリブ動物と教育財団)で、足の重度の障害を治すのに役立つ急ごしらえの靴下を履き、確認しているカリブフラミンゴ。

## 「フォトドキュメンタリー・ワークショップ」

国内では数少ないフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの現場を学べるワークショップを開催予定です。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオレビュー、クイック・ヒット・エッセイ制作を行います。開催日時などの詳細は、決まり次第ホームページにて発表します。

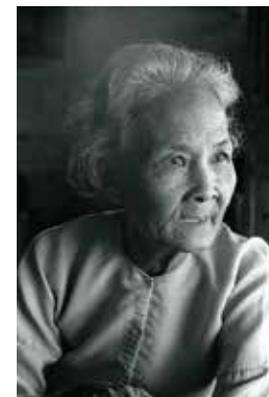
# 大石芳野写真展 戦禍の記憶

Ravages of War Oishi Yoshino

B1F 2019.3.23|土|-5.12|日|

20世紀は「戦争の世紀」ともいわれます。二度にわたる世界大戦で人類の危機とでもいべき大量の殺戮と破壊をもたらした後も安寧を迎えることはなく、21世紀を迎えてもなお、世界のどこかでひとときも収まることなく戦争が続いています。

戦争の悲惨な傷痕に今なお苦しむ声なき民に向きあい、平和の尊さを問いつづける大石芳野(1943年-)。本展では約40年にわたり、世界中で戦争の犠牲となった人々取材し、いつまでも記憶される戦禍の傷にレンズを向けてきた作品約150点を展覧します。



ベトナム ©Yoshino Oishi

## 「関連イベント」

【講演会】大石芳野 聞き手:徳山喜雄(ジャーナリスト)  
【日時】2019.3.23(土) 14:00-15:30(13:30開場)

【対談】大石芳野×池内了(天文学者)  
【日時】2019.4.20(土) 14:00-15:30(13:30開場)

【会場】東京都写真美術館 1階ホール 【定員】190名  
参加無料(ただし、本展の展覧会チケットが必要です)  
※当日10時より1階受付にて入場整理券を配布します。

【主催】クレヴィス 【共催】東京都写真美術館  
【観覧料】一般 1,000(800)円/学生 800(640)円/中高生・65歳以上  
600(480)円 ※( )は20名以上の団体料金

◎お問い合わせ 株式会社クレヴィス 03-6427-2806  
ホームページ <http://www.creviss.co.jp/top/>

## 第44回2019 JPS展

2019 The 44th Exhibition of The JPS

B1F 2019.5.18|土|-6.2|日|

公益社団法人日本写真家協会が主催するJPS展は1976年に第1回展を開催し、今回で44回を数えます。歴代の入賞・入選者からは多くのプロ写真家を輩出し、写真愛好家からの人気と評価の高い歴史ある一般公募展です。本展では2019年3月中旬に発表の入賞・入選作品を紹介します。

【観覧料】一般 700円/学生・65歳以上 400円/高校生以下無料  
◎お問い合わせ 公益社団法人日本写真家協会 03-3265-7451

# 嶋田 忠

## 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界

Shimada Tadashi ; Wild Moments The World of Beautiful Birds

### カワセミとの出会いが生んだ、「日本一写真を撮らない写真家」

カワセミの清楚な美しき、シマフクロウが放つ神秘的な強さ、アカショウビンの魔性……。嶋田忠が切り取るのは、肉眼で追うのも難しい、鳥ごとの魅力が凝縮された一瞬です。長年磨かれた観察眼の秘密に迫ります。



《シマエナガ》2010-17年 作家蔵

撮影する時はハンターのように、どう仕留めるか緊張していますが、リラックスするよう心がけています。見すぎないように、見る。狙いを外さないための極意ですね。余裕をもち、狙い通り撮るには、イメージトレーニングこそ大事です。

まず鳥の全体の行動を把握するために、徹底的に観察します。これによって集めたデータを分析し、相手のことが分かると、自由に理想的なイメージを描きます。絵コンテや構成を考え、「こう来たらこう撮ろう」と想像します。これほど面白いことはない。

いよいよ撮る時になると、ブラインドという撮影用の小屋に、気配を消して隠れます。見える部分が限られる密室で、集中力が高まるんです。想像し、待って、撮る。そのすべてが、めまぐるしく頭の中で動きます。10時間く

らいるのは普通です。熱帯のジャングルだと汗が全部出てしまう。冬の北海道だとマイナス20度にもなります。

撮影は全体の1割くらいで、見ることが基本。「日本一写真を撮らない写真家」ですね(笑)。

#### 幼いころの体験が、独自の流儀を生む

人間はすごいスピードで動くことも、飛ぶこともできない。鳥を近くで見たい、撮りたいと思うのは、人間を超えた存在への畏敬の念からです。かわいい、カッコいいではない、すごい生き物。一方で、強く握ると死んでしまう儚さがある。そのギャップがたまらないですね。

武蔵野の農村に生まれて4、5歳の時から鳥を飼っていました。次の行動を予

測して捕まえるために、隠れて観察する。これは子供の時から身につけていましたね。材料はいっぱいあるので、竹でブラインドを作りました。布をかぶると、こちらの姿が消えて、接近戦で自然な鳥の姿が見られます。

高校一年の時、母がカメラと200mmの望遠レンズを買ってくれました。初めて撮ったのは、庭で巣を作っていたモズ。金網の中で飼っていた小鳥を狙う敵なのですが、猛々しさが好きでした。

写真家の従兄にフィルム現像を教わり、部屋に暗室を作りました。液に浸けた瞬間、スーッと絵が現れてくる。無から有を生むのが面白かったです。

#### カワセミとの出会いから、写真家になることを決意

20歳の時、長野県の千曲川の土手で偶然見かけて、あまりの美しさに呆然としました。エメラルドグリーン<sup>3</sup>の翼で飛び、背中のコバルトブルーが帯のようになって消えていった。

半年後には、群馬県の山中でアカショウビンを見ました。まさに火の鳥。清楚なカワセミと正反対で、死につながる魔性を感じました。「とても太刀打ちできない」。まずカワセミをきっちり撮ろう、もう写真家になる



《カワセミ》1971-79年 作家蔵



《アカショウビン》1981-87年 東京都写真美術館蔵



《シマフクロウ》1981-87年 東京都写真美術館蔵

しかないと思いました。

カワセミを埼玉の高麗川<sup>3</sup>で十年撮って区切りをつけ、北海道・千歳に移住しました。昔から雪に憧れていた、次に撮ると決めていたアカショウビンがいるのを確認し、「北海道でアカショウビンなら最高だ」と。千歳の森で撮影を始めました。

やがてアイヌの人たちと友達になり、シマフクロウがなぜ最高のカムイ(神)なのか確かめたくまりました。中古のワゴン車を森に置いて寝泊まりし、生息地をゼロから探しました。夕方、河原でうずくまっていると、壘が飛んでくるように現れました。闇の中、黄色い目が自分の眉間を貫いているんです。全てお見通しだぞ、と。すくみ、震えました。撮るまでに3年かかりましたね。千歳で撮ったアカショウビンもシマフクロウも、人間を超越したものを見出せるカムイでした。

#### さまざまな人が 鳥を撮って広がる世界

常に動いているのが生き物の面白さで、写真だと肉眼で見えたものを上回ったものが出てくる。絵筆にはない、カメラのうまみです。よく、鉄道や飛行機を撮る人に「身近な所で被写体を探してみても」と勧めると、鳥を撮る深みにはまっていきました。生き物を追い求める感じは、本能を刺激するんです。

千歳に拠点を移して約40年。私のギャラリーには併設しているバードウォッチングカフェがあります。デジタルカメラの小型化で、バードウォッチングをしていた人が撮るようになり、撮る人はハイアマチュアから、お年寄りや子供、女性へと幅が広がっています。その人の世界が広がれば、心は豊かになります。例えば近くの公園で目を向けるポイントが増えたとしたら、好奇心が増しているということです。



《オウゴンアウチョウモドキ》2008年 作家蔵



デジタル化は、写真家の寿命を20年伸ばしました。体力の衰えを、機材の進歩が補ってくれます。多くのデータを持つベテランは、だてに生き残ってないですよ(笑)。好奇心から自分で足を運び、体験し、収集しています。私も1月で70歳になりましたが、古希ではなく“新希”です。その年に開く写真展が楽しみです。(2019年2月 文 松本浩司)



《オジロオナガフウチョウ》2013年 作家蔵

**PROFILE / 嶋田 忠(しまただし)**

1949年、埼玉県入間郡大井村(現・ふじみ野市)生まれ。71年、日本大学農獣医学部畜産学科卒業後、動物雑誌『アニマ』(平凡社)創刊に参加、以後フリーランスの写真家として野鳥を中心に独自の表現を開拓している。80年、『カワセミ 清流に翔ぶ』により第17回太陽賞、日本写真協会新人賞を受賞。86年、『火の鳥 アカショウビン』により日本写真協会年度賞を受賞。80年より北海道を拠点に、内外の自然写真を撮り続ける。90年代からは映像作品の制作を手がけ、『エゾモモンガ』によりアメリカ・IBA国際放送広告賞を、『風の王国・生命の森』によりギャラクシー奨励賞(日本放送批評懇談会)を受賞。

**嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界**

Shimada Tadashi ; Wild Moments The World of Beautiful Birds

**2F** 2019.7.23|火|-9.23|月・祝|

嶋田忠は、カワセミ類を中心に、鳥獣の写真家として知られています。圧倒的な存在感と神々しいまでの生命力をもったカワセミやアカショウビンを力強く捉えた作品から、湿潤な日本の風土に生きる鳥獣を、日本画の伝統である「自然から学ぶ」意識と感性に裏打ちされた目で捉えた繊細な作品まで、その多彩な表現は高く評価されています。

本展覧会では、作家の約40年に及ぶ創作活動を概観するとともに、「世界最古の熱帯雨林」と言われるニューギニア島を舞台に、不思議な生態と華麗な姿で人々を魅了する貴重な野生動物を紹介します。嶋田忠の優れた感性と最新の技術が融合し、人間の知覚を超えて生み出される“奇跡の瞬間”に、どうぞご期待ください。

**|担当芸員によるギャラリートーク**

毎月第2・4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

**|関連イベント**

〈連続対談「空の王者、大いに語る」〉

[日時] 2019.8.3(土)「鳥と生きる」  
安西英明(公益財団法人日本野鳥の会 会主席研究員)×嶋田忠  
2019.8.10(土)「陸の覇者×空の王者」  
宮崎学(写真家)×嶋田忠  
2019.8.17(土)「鳥から学ぶ」  
樋口広芳(東京大学名誉教授、鳥類学)×嶋田忠  
聴講無料/各回14:00より/会場:2階展示室前ロビー  
(先着順・定員50名)

〈特別上映〉嶋田 忠 撮影監督  
『ダーウィンが来た!』『ワイルドライフ』(予定)  
[日時] 2019.8.24(土)14:00- [協力] NHKエンタープライズ  
〈アフタートーク〉  
横須賀孝弘(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー)×嶋田忠  
入場無料/会場:1階ホール(定員190名)/要入場整理券  
※当日午前10時より1階総合受付にて整理券を配布

〈アーティストによるネイチャートーク〉  
8月の毎週日曜日、14:00-16:00まで、2階展示室前ロビー  
(参加無料)

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 [後援] ふじみ野市/ふじみ野市教育委員会 [特別協賛] キヤノンマーケティングジャパン [協賛] ライオン/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 [制作協力] NHKエンタープライズ  
[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金 7月25日(木)-8月30(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※各種割引の併用はできません。9月16日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料。

**1F 「ホフマニアダ ホフマンの物語」**

「ホフマニアダ ホフマンの物語」は、「チェブラーシカ」(ロマン・カチャーノフ監督)、「霧につつまれたハリネズミ」(ユリー・ノルシュテイン監督)の制作スタジオとして著名なモスクワのソユーズムリスタジオが15年の歳月をかけて紡ぎあげた異色ファンタジーです。

主人公はドイツの幻想作家E.T.A.ホフマン。昨年末、そのホフマンの原作となる「くるみ割り人形」がディズニーにて公開され、大きな話題となりました。ホフマン関連の作品としては、J. オッフェンバックによるオペラ「ホフマン物語」が有名です。また、その舞台の映画化「ホフマン物語」はベルリン、カンヌ両映画祭で受賞したオペラ映画の傑作です。そして新たにホフマンの世界をストップモーションという技法を駆使して表現した作品が本作です。1分間のシーンに最低1カ月を要するこの撮影手法にもかかわらず、パペットの衣装、目や唇の動きまで意識した作といった、その細部へのこだわりも見逃せない魅力です。



©souzmultifilm

〈お問い合わせ先〉リスケット 070-4280-6282  
映画公式サイト <http://www.hoffmaniada.net>

[上映期間] 2019.4.2(火)-4.26(金)  
[休映日] 4.8(月)、15(月)、20(土)、22(月)  
[上映時間] 11:00/16:00/18:30  
※4月21日(日)は11:00の回のみ上映  
[料金] 前売特別鑑賞券 1,500円/当日 一般1,800円/学生1,500円/シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円

**1F フィリップ・ガレル監督特集****「救いの接吻」、「ギターはもう聞こえない」**

1964年、16歳の処女短編「調子の狂った子供たち」から現在に至るまで精力的に映画を撮り続けている、ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランスを代表する映画監督フィリップ・ガレル(1948年~)。ガレル自身が自らの数多くの作品のなかで「自伝と台詞の時代」として区切る中期の代表作「救いの接吻」(89年)、「ギターはもう聞こえない」(91年)を上映します。

【救いの接吻】崩壊の危機にある家族の物語を、監督を含め実際の家族たちが演じた、至高の家族映画。

【ギターはもう聞こえない】フィリップ・ガレルが前妻ニコの急逝直後に製作した、極めて私的なラブストーリー。1991年ヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞。

[上映期間] 2019.4.27(土)-5.17(金) [休映日] 5.7(火)、5.13(月)  
[上映時間] タイムテーブル未定  
[料金] 当日券:一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円/当日券割引あり



〈お問い合わせ先〉  
コピーアポフィルム 03-6416-9751

**各種割引**

以下の方は当日料金が割引になります。  
当館年間バスポート提示、当館での展覧会・映画の半券提示、MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)提示、JREカード(アトレビュー-Suicaカードより移行のクレジットカード)提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間バスポート提示  
※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

# 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、  
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》  
キャノン(株)  
(株)資生堂  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

《賛助会員》  
キャノンマーケティングジャパン(株)  
ゲッティイメージズジャパン(株)  
大日本印刷(株)  
東急建設(株)  
凸版印刷(株)  
富士フィルム(株)  
(株)リコー

《特別支援会員》  
アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)

《支援会員》  
(株)アール&キャリア  
(株)I&S BBDO  
あいおいニッセイ同和損害  
保険(株)  
アオイネオン(株)  
(株)AOI Pro.  
(株)アサソー ディ・ケイ  
旭化成(株)  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
(有)アスペン/POLARIS  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
(株)潮出版社  
(株)栄光社  
(株)エージーピー  
(株)エスジー  
(株)ADKクリエイティブ・ワン  
(株)NHKアート  
NHK営業サービス(株)  
(株)NHKエデュケーショナル  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHKグローバルメディア  
サービス  
(株)NHK出版  
(株)NHKビジネスクリエイ  
(株)NHKメディアテクノロジー  
エルメス財団  
オリンパス(株)  
(株)オンワードホールディングス  
カールツァイス(株)  
花王(株)

加賀電子(株)  
鹿島建設(株)  
(株)KADOKAWA  
カトーレック(株)  
神奈川新聞社  
カメラショップ(株)  
(株)かんば生命保険  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ  
キックマン(株)  
(株)紀伊國屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
(一社)共同通信社  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
グローリー(株)  
(株)ケー・アンド・エル  
ケンコー/トキナー/スリック  
興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)廣済堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスインターナショナル  
(株)コーセー  
コダック(同)  
(株)コダックアラリスジャパン(株)  
小山登美夫ギャラリー(株)  
三菱石油(株)  
三機工業(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)サンライズ  
(株)ジェイアール東日本企画  
JSR(株)  
JXTGホールディングス(株)  
(株)JT  
ジェイティービー印刷(株)  
(株)シグマ  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
清水建設(株)  
(株)写真弘社  
写真の学校/東京写真学園  
シャネル(株)  
(株)集英社  
シュッピン(株)  
(株)主婦と生活社  
(株)小学館  
城西国際大学メディア学部  
松竹(株)  
信越化学工業(株)  
(株)新潮社

(株)スタジオアリス  
(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
スターツ出版(株)  
(株)SUBARU  
住友化学(株)  
住友生命保険(相)  
(株)生活の友社  
セイコーホールディングス(株)  
成美製版(株)  
双日(株)  
ソニー(株)  
損害保険ジャパン日本興亜(株)  
第一生命保険(株)  
第一法規(株)  
(株)ダイケンビルサービス  
台新国際商業銀行  
大成建設(株)  
(株)大丸松坂屋百貨店  
大和証券(株)  
(有)タカ・インシギヤラリー  
高砂熱電子工業(株)  
(株)高島屋  
(株)宝島社  
(株)竹中工務店  
玉川大学芸術学部  
(株)タムロン  
(株)丹青社  
(株)中央公論新社  
中外製薬(株)  
帝人(株)  
(株)TBSテレビ  
デジタル・アドバタイジング・  
コンソーシアム(株)  
(株)テレビ朝日  
(株)テレビ東京  
電源開発(株)  
(株)電通  
東亜建設工業(株)  
東映(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
東京急行電鉄(株)  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
(株)東京スタジオ  
東京造形大学  
東京総合写真専門学校  
東京建物(株)  
東京地下鉄(株)  
東京テアトル(株)  
東京都競馬(株)  
(株)東京ドーム  
(株)東京ニュース通信社  
(学)専門学校 東京ビジュアル  
アーツ

(株)東京美術倶楽部  
東京メトロポリタンテレビ  
ジョン(株)  
(株)東芝  
東宝(株)  
(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社  
(株)生活の友社  
(株)徳間書店  
戸田建設(株)  
トヨタ自動車(株)  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコニイメージングジャパン  
日活(株)  
日油(株)  
(株)日経BP  
日光ケミカルズ(株)  
日産自動車(株)  
(株)大丸カメラ社  
日本空港ビルデング(株)  
日本経済新聞社  
日本航空電子工業(株)  
(株)日本広告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本コルマー(株)  
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)  
(公社)日本写真家協会  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
(一社)日本写真文化協会  
日本生命保険(相)  
日本大学芸術学部  
(株)日本デザインセンター  
日本テレビ放送網(株)  
(株)ニッポン放送  
日本ロレックス(株)  
(株)ニューアートディフェュー  
ジョン  
野村證券(株)  
(株)博報堂  
(株)博報堂DYメディア  
パートナーズ  
(株)博報堂プロダクツ  
(株)ハースト婦人画報社  
(株)ハーツ  
パナソニック(株)  
(株)パラゴン  
びあ(株)  
ピービーメディア(株)  
北海道 写真の町東川町  
東日本旅客鉄道(株)  
光写真印刷(株)  
(株)ピクトロ  
(株)美術出版社

(株)ピックカメラ  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)フォトメディア  
(株)フジテレビジョン  
(株)フジヤカメラ店  
(株)ブラザクリエイト  
(株)プリンスホテル  
(株)フレームマン  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
ベルボン(株)  
北海道新聞社  
(株)ホテルオークラ東京  
(株)堀内カラー  
本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
(株)日本カメラハウス  
丸善(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム  
(株)みずほ銀行  
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店  
三菱地所(株)  
三菱製紙(株)  
三菱倉庫(株)  
三菱電機(株)  
三菱UFJ信託銀行(株)  
(株)ミルボン  
武蔵大学  
明治安田生命保険(相)  
森ビル(株)  
ヤマトグループバルロジステ  
クスジャパン(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
リコーイメージング(株)  
リシュモン ジャパン(株)  
モンブラン  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・オブ・  
アート  
(株)ワコール

2F SHOP  
ミュージアム・  
ショップ

NADIFT  
BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアム  
ショップ。少しずつ暖かくなり、春の訪れを感じる日々。  
そんな気持ちをお持ち帰りできるような、写真集や雑貨をご用意  
してお待ちしております。

鈴木理策「Etude」 5,184円  
sora cube magnet 2,786円 (価格はすべて税込)



詳細  
ページは  
こちら



営業時間/10:00-18:00(木・金は20:00まで)  
TEL/03-6447-7684  
定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE  
カフェ

MAISON ICHI  
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,296円  
季節のスूपとデリプレート(自家製パン付き) 1,296円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます  
キッシュ各種 571円  
自家製サンド 480円〜 タルト各種 486円  
スペルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 430円 ホール1,620円  
ホットコーヒー 486円/ティー 540円

ジュース・アルコール類もあります。  
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税込)



詳細  
ページは  
こちら



営業時間/10:00-19:00(木・金は20:00まで)  
TEL/03-6277-3862 定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2019 3	写真の起源 英国 (企) 3.5(火) - 5.6(月・振休)	志賀理江子 ヒューマン・スプリング (収) 3.5(火) - 5.6(月・振休)	大石芳野写真展 戦禍の記憶 3.23(土) - 5.12(日)	山猫 4K修復版 3.17(日) - 3.31(日)
4				
5	TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語 (収) 5.14(火) - 8.4(日)	宮本隆司 いまだ見えないところ (収) 5.14(火) - 7.15(月・祝)	第44回2019JPS展 5.18(土) - 6.2(日)	「ホフマニアダ ホフマンの物語」 4.2(火) - 4.26(金)
6			世界報道写真展2019 6.8(土) - 8.4(日)	フリック・ガレル監督特集 「救いの接吻」、 「ギターはもう聞こえない」 4.27(土) - 5.17(金)
7		嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界 (企) 7.23(火) - 9.23(月・祝)	ポーランド同時代美術に おける女性作家と 映像 (仮称) (収) 8.14(水) - 10.14(月・祝)	
8	TOPコレクション イメージを読む 第2期 (仮称) (収) 8.10(土) - 11.4(月・振休)			

「ぐるっとバス 2019」の  
詳細はこちら▶



(収) 収蔵展 (企) 企画展  
年間パスポートの詳細はこちら▶



## 東京都写真美術館 年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2019」発売

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。  
販売価格: 3,240円(税込) 販売期間: 2019年4月2日(火) - 2019年9月29日(日)  
有効期間: 2019年4月2日(火) - 2020年3月31日(火) 販売場所: 当館1階総合受付  
スケジュール内の(収)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

## 割引料金について

割引対象

- 展覧会を割引料金にてご観覧いただけます
- 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
  - 2.各種会員の方 観覧料が2割引
    - JRE CARD (2018年7月2日にアトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)
    - MIカード (三越伊勢丹グループのクレジットカード)
    - ウェルカムカード (訪日外国人向けの割引カード)
    - 当館映画鑑賞券提示者
    - 財団他館友の会、年間パスポート会員
    - JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
  - 3.親子ふれあいデー (毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象) 観覧料が5割引
    - 都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。 ※詳しくはお問い合わせください。

無料対象

- 展覧会を無料でご観覧いただけます
1. □ 小学生以下
    - 障がい者手帳提示者及びその介護者 (2名まで)
    - 被爆者手帳提示者及びその介護者 (2名まで)
    - 愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者 (2名まで)
    - 精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者 (2名まで)
    - 東京都内在住・在学の中学生
 ※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。当館までお問い合わせください。
  2. シルバーデー (毎月第3水曜日)
    - 65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで)、ただし、7月18日(木)-8月30日(金)の木・金は21:00まで開館。入館は閉館30分前まで。  
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)

東京都写真美術館ニュース「アイズ19」98号 □発行日:2019年3月20日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課普及係 □印刷・製本:株式会社公社社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2019 □本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo  
FESTIVAL